

第4学年 道徳科学習指導案

日 時：平成30年7月12日（木）5校時

場 所：第4学年教室

指導者：T1教諭 長橋 政之

T2講師 小池 裕也

1 主題名 けじめのある生活 A－（3）節度，節制

2 主題について

（1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、A「主として自分自身に関すること」の「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする」と関連が深い内容項目である。

人はつい周りの状況に合わせて、行動してしまうことがある。それが児童となると、学級や友達関係の中で、大人よりも周りを意識し、自分の考えとは違った行動をとってしまったり、その場の雰囲気判断したりしてしまう。自分自身で、できることは何かを考え、自分の考えの基に行動に移す態度を育てていくことが重要である。このことは、自分や周りの人の快適な生活を守ることに繋がっていく。

（2）児童について

本学年は、男子6名、女子10名、計16名の学年である。本時の授業にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。

（4月13日実施 男6名 女子10名 計16名 質問紙法）

A（だいたい身に付いている） B（どちらかといえば身に付いている）	A	B	C	D
C（あまり身に付いていない） D（不足しているので今後身に付けたい）				
よく考えて行動し、あやまちはずなおに認める。	7	9	0	0
正しいと思うことは勇気をもって行う。	7	7	2	0

本学年の意識調査の結果は全校と比べると比較的高い傾向にある。他の項目においても同様に高い傾向にある。全校と比較し自己肯定感が高い学年であることが分かる。本学年の児童は友達との関係は良好で、友達関係のトラブルはほとんどない。何に対しても、真面目に取り組むことができる学年である。一方で、女子を中心に周囲に合わせすぎたり、周りの目を気にしすぎたりする傾向が強い。また、周りとは違う行動を嫌ったり、周りの意見に影響され、自分の考えとは違った行動を取ってしまったりする様子が見られる。

（3）教材について

① 教材名 「いっしょになって、わらっちゃだめだ」 出典：「新しい道徳4」 東京書籍

② 価値 A－（3） 節度，節制

③ 教材について

本教材は、ゆうじをからかっていることを父からいじめではないかと指摘された「ぼく」が自分のいじめに気づき、自分ができることは何かを考え、それを行動に移すという内容である。みのるが、ゆうじを「モンキー」と呼んでいたとき、周りにいた子たちが一斉に「ぼく」の方を向いた中、「ぼく」が黙って教室を出ていったのはどうしてかについて話し合い、自分ならどのような行動ができるかを考えることを通して、本時のねらいについて考えることができる教材である。

④ 教材分析（別紙）

（４） 研究の視点

【視点 1】 道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業スタイルの工夫

① 事前読みと課題設定

- ・ 家庭学習で教材を読み、あすなるノートに授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもって対話を進められるようにする。
- ・ 事前に担任が各自の課題を集約し、課題を絞る。それを朝の活動で一つに決め、その課題に対して、自分の考えをもたせる。

② 対話中のツールキットの活用と問い返し

- ・ 「なぜなら～」のツールキットを活用することによって、自分の立場を明確にし考えの根拠を明らかにして発表できるようにする。
- ・ 予想される反応を類型化し、問い返しを予め教師が何パターンか準備することによって、価値理解、人間理解、他者理解、自己理解がより深まる対話を進められるようにする。

③ ネームカード

- ・ 自分の事として考える際に、ネームカードを使って集団の中の自分の立場を可視化させることによって、友達の考えとの違いを理解させ、多面的・多角的な見方につなげさせる。

④ 「あすなるノート」の活用

- ・ 授業の最後に対話を振り返り、次の順序であすなるカードに書かせる。
 - 1) 友達の心に残った意見を記入させることによって、自分の考えと比較させたり、物事を多面的・多角的に考えさせたりする。
 - 2) 対話を振り返り、本時の授業を通して考えたこと書かせることによって、自己内対話させ、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。

（５） 宮城県学力向上に向けた 5 つの提言との関連

本主題では「学力向上に向けた 5 つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言 3, 4 を踏まえ、授業のまとめの段階で振り返りの時間を設定し、自分の考えをノートに書かせる。

提言 5 を踏まえ、事前に家庭学習で教材を読ませ、感想と本時で話し合いたい課題を考えさせる。

4 本時の学習

(1) ねらい

自分にできることは何かを、自分のこれまでの体験や話し合いの中から考える。

(2) 準備物

- ① 教師 : 掲示用挿絵 ツールキット コミュニティボール
- ② 児童 : 教科書 筆記用具 「あすなるノート」

(3) 学習過程

段階	学習活動 (◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	・指導上の留意点 ◇評価(方法) ※研究の視点 【5つの提言】
事前	<p>【家庭学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み、感想とみんなで考えた課題を「あすなるノート」に記入する。 <p>【朝の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が考えた課題の中から、教師が3つに選択しておき、本時で話し合う課題を全員で決める。 ・本時の課題に対する自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもつことができるようにする。 <p style="text-align: right;">※研究の視点① 【提言5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する考えを「あすなるノート」に書かせ、自分の考えをもって授業に臨むことができるようにする。
本時 導入 5分	1 教材の内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に掲示用挿絵と台詞や場面の流れが分かるように貼っておき、流れの確認を短時間で行う。
展開 30分	<p>2 教材を基に、児童が選んだ課題について対話する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>選んだ課題(例) からかうのはいじめなのか。</p> </div> <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時間目の授業中何を考えていたのか。 ・なぜ立ち上がって出ていったのか。 ・なぜ、周りの子たちは笑うのをやめなかったのか。 ・出ていったぼくは、その後何を考えていたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に児童が選んだ課題で対話を始め、なぜその課題を考えたのか理由を発表させる。 ・「なぜなら～」というツールキットを活用し、自分の考えの根拠を明らかにして発表させるようにする。 ・普段の生活で、ゆうじやみのる、周りの子供達の立場のように、似たような状況などがあることに触れ、自分にも起こりうる事であることを確認する。そうすることで、自分のこれまでの体験などを踏まえた話し合いができるようにする。
人間 理解		

<p>価値理解</p> <p>人間理解</p> <p>自己理解</p>	<p>◎「ぼく」がだまって教室を出ていったのは、どんなことを考えたからでしょう。</p> <p>【予想される反応A（自分のため）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんに「それはいじめだ」と言われたので、また、「サル」と言われていて、その場にいたくなくなったから。 ・自分だけでも笑わないぞという気持ち。 ・いろいろと考えたけど、出ていくという行動しかできなかった。 <p>【予想される反応B（周りへの訴え）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは笑わないという周囲への気持ちの表れ。 ・ぼくが出ていくことで、みんなにもゆうじの気持ちに気付いてほしい。 ・いじめだということにみんなに気付いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想される子どもの発言を類型化しておき、話し合いが深まらないときは予め準備した問い返しを教師が行う。 <p>【反応Aへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「笑われているゆうじを置いて出ていってもいいのかな。」 ・「もし、一緒に笑ってしまったら、どうなるの。」 ・「なぜ、その場にいたくなくなったのかな。」 <p>【反応Bへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「周りのみんなはそれでいじめだと気付くのかな。」 ・「みんなにやめようと言えばいいんじゃない」 ・「ゆうじは笑われていて、どんな気持ちだったのかな。」 <ul style="list-style-type: none"> ・問い返しをすることで、自分でよく考えて黙って出ていくことを選んだ「ぼく」の気持ちに気付かせる。 <p>※研究の視点②</p>
<p>他者理解</p>	<p>○もし、「ぼく」が自分だったら何ができるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら、周りに言えるか、言えないかをネームカードを使い、意思表示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中の、自分の立場を意思表示し可視化させることによって、友達との考えの違いを理解させるきっかけとする。そして、具体的な理由を考え説明させることによってそれぞれの立場についての理解を深められるようにする。 ・自分だったらと問うことや問い返しによって、今までの自分の経験や考えを振り返り、自己を見つめられるようにする。 <p>※研究の視点②</p>

		<p>【予想される反応A（みのるに対して）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら、みのるに直接、「やめろ」と言う。 <p>【予想される反応B（周りに対して）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みのるには直接言えそうにないから、周りの子にまず、笑うのをやめようと言う。 <p>【予想される反応C（ゆうじに対して）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうじが笑われている間どんな気持ちなのかを聞いて、嫌がっているならみんなに伝える。 <p>【予想される反応D（その他に対して）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達には言いづらいから、先生に伝える。 ・親に言う。 	<p>【反応Aへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなが笑っている中で本当に言えるかな。」 <p>【反応Bへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「具体的に何て言えば、伝わるかな。」 <p>【反応Cへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆうじが平気だよと言ったら、何もしないでいいのかな。」 <p>【反応Dへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生や親に伝えるだけで自分は何もしなくていいのかな。」 ・教師のなかなか言い出せずに節度節制のできなかった例を出し、ちょっとおかしいと思ったことをやめないと、歯止めがきかなくなって後悔した話を聞かせることによって人間理解を深めさせる。また、自分自身で考えて行動することの大切さについて考えさせる。
まとめ 10分	自己理解	3 心に残った友達の意見と感想をノートにまとめ、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残った友達の意見を書かせることによって、友達と違う考え方や同じ考え方、似た考え方など、物事を多面的・多角的に考えさせる手立てとする。 <p style="text-align: right;">※研究の視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話を振り返り、本時の授業を通して考えたことを書かせることによって、自己内対話をさせ、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。 <p style="text-align: right;">【提言3, 4】※研究の視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数名の児童を意図的に指名し、書いた内容を発表させることによって、考えの共有と他者理解を深められるようにする。 <p>◇よく考えて、自分にできることをしようとする大切さについて考えることができたか。（発言，ノート）</p>

(4) 評価

○自分にできることは何かを、自分のこれまでの体験や話合いの中から考えることができたか。

（発言，ノート）

(5) 板書計画

挿絵	挿絵	挿絵	いっしょになって、わらっちゃだめだ 問い「(例) からかうのはいじめなのか。」 「ゆうじってサルににてない？」 みんなは手をたたいておもしろがった	
休み時間 みのがゆうじを「モンキー」と呼んだ。 ぼくはだまって教室を出ていった。	次の日 ゆうじをまた「サル。サル。」と呼んでいた。 いろいろ考えたが・・・	「からかって遊ぶのはどうかなあ。・・・」		ゆうじはいっしょん暗い顔をしたが、サルのまねをしながら席に着いた。それを見てまた・・・